



日口交流

発行 : 特定非営利活動法人 日口交流協会
E-mail: nichiro@nichiro.org
Home Page http://www.nichiro.org
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号
Tel : 03 (5563) 0626 Fax : 03 (5563) 0752



NPO 日口交流協会第17回 (通算53回) 通常総会開催

内堀 學

当協会第17回通常総会が3月24日(金)午後2時より新橋生涯学習センター305号室にて開催された。専務理事による開会宣言後、議事定款第26条に基づき議長選出に移り、江守元彦副会長が議長に推薦選出された。続いて専務理事より本総会出席者数が正会員中、出席者14名、書面表決者64名、表決委任者13名、合計91名であり定款27条に定める正会員数221名の3分の1(74名)以上であり、総会開会に必要な定足数を満たしていることが報告された。



議案の審議に入り、第1号議案「2016年度事業報告」、第2号議案「2016年度会計収支決算報告」、「会計監査報告」の説明報告が専務理事、監事(吉田監事療養中で欠席のため専務理事が代読)により行われ、議案原案どおり承認された。第1号議案2016年度事業報告では、エカテリンブルグ、クラスノダール他ロシア5都市への第13回、第14回「日本文化交流団」の派遣、国内活動として生け花、きもの、折り紙、友禅、マトリョーシカ他文化交流、日本語ロシア語語学教室、ロシア留学支援、ロシア関連講演会、バーベキュー、ハイキング他アウトドア活動など、11の部会委員会等の事業の活動成果が報告された。

引き続き、第3号議案「2017年度事業計画」、第4号議案「2017年度会計収支予算案」が専務理事より説明され、議案原案どおり承認された。第3号議案2017年度事業計画では2016年度に引き続き11の部会委員会等の事業活動計画が報告され、各事業活動においてロシア人と日本人及び会員相互の交流、懇親を深める活動を継続するとともに、部会横断的の活動も実施し、協会活動の魅力を高め、会員数の減少に歯止めをかけていくこととされ、個別事業においては留学支援の立て直し、及びロシア語教育の充実に重点をおくこととされ

た。続いて、第5号議案「補充理事の選任」が審議され、議案原案通り承認された。本議案は理事欠員に伴い補充理事が総会にて選任されるもので、この結果正会員顧問の服部文男氏が理事に復帰されることになった。

以上をもち、本総会議事はすべて終了した。総会終了後、理事に就任された服部顧問、2月の理事会で顧問に推薦された関根新顧問が紹介され、ご挨拶頂いた他、出席された会員の方からも近況報告などが行われ、散会となった。

本年は1月に新年会を開催したため、例年の総会後の記念講演、懇親会は実施せず、総会のみ開催となった。

(専務理事)



お願い

NPO日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシアに関する講演会、在ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けております。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をよろしくお願い申し上げます。一口千円から、いくらでも結構です。
振込先: 郵便口座 00160-9-66486 加入者名: 日口交流協会
連絡先: 日口交流協会事務局 Tel: 03-5563-0626

お知らせ

●ロシア人講師による充実したロシア語クラス生徒募集中

- 0からの入門クラス 毎週水曜 18:30～19:30
 - 初級1クラス 毎週月曜 19:30～21:00
 - 初級2クラス 毎週月曜 17:00～18:30
 - 準中級クラス 毎週月曜 18:30～19:30
 - 中級クラス 毎週火曜 18:30～20:00
 - ТРКИ入門 月2回木曜 19:00～20:30
 - ТРКИ2レベル月2回水曜 19:30～21:00
 - 上級クラス 毎週土曜 10:00～11:30
 - 原書講読中級 月1回土曜 13:30～15:00
- *会員のみです。見学できますのでお問い合わせください。

●第40回マトリョーシカ絵付け教室: 4月9日(日)

●第41回マトリョーシカ絵付け教室: 5月14日(日)

- 時間: 13:00～16:00
- 講師: 菅野エレナ
- 場所: 田町駅みなとパーク芝浦、「リーブラ」2階
- 会費: 3,000円(5個セットの教材、講師代、お茶代含む)
- *従来のセットや組板の他に、起き上がり小坊師やマグネットなどの新教材も入りましましたのでご期待ください。エレナ先生のマトリョーシカ教室はNHKでも紹介されました。
- *お問い合わせ、お申し込みは協会事務局までお願いします。
- Tel: 03-5563-0626 E-Mail: nichiro@nichiro.org

● 広報部宛、ご投稿、ご意見をお待ちしております



2017年日口交流バスツアー

岩本 智子

今回のバス旅行には、歌を用意して行きたいと思っていた。これまでロシアの皆さんと交流してきた中で、歌が喜ばれることを実感している。2月の初めに、たまたまロシア語仲間からКак ты красива сегодня という少し昔の流行歌を教えてもらった。きれいな歌である。一緒にバス旅行に参加する上級クラスの中村さん、留学支援の山田さん、中級クラスメートのラファエルさんに声をかけ協力してもらうことにした。

晴天に恵まれた2月25日の朝千葉・茨城を巡る旅に出発した。成田山新勝寺と鹿島神宮への参拝、水戸偕楽園、つくばエキスポセンター見学と盛りだくさんである。ロシア大使館とロシア通商代表部からは31人もの方が参加され、協会側は、理事やロシア語クラス参加者など19名が参加した。最初に向かうのは初詣客数では日本で2番目の成田山新勝寺、そして近年ではパワースポットとも言われる鹿島神宮である。バスの中で内堀専務理事が、神道と仏教は違うということ―神道は万物に魂が宿るという教えであり、仏教は仏陀の教えを伝道していること、この二つの教えが日本人の心の中に共存していること、をロシア語で解説された。旅の始まりから、かなりハイレベルな文化交流である。

成田山新勝寺の広い境内に入って、煙の上がる香閣で煙をかぶると日常を離れた気がした。頂上の「平和の大塔」まで登ると梅林からのよい香りに包まれていた。鹿島神宮の森の中は静かで、空気が澄んでいる。昔の人々は自然を壊して何か作るのではなくて上手に共存させていると思う。

二日目に梅が見頃の偕楽園を訪れることが出来たのは貴重なことである。偕楽園の中にある好文亭を見学した。たくさんのお部屋があるお屋敷で、それぞれの部屋には「桃の間」「松



の間」など植物の名前がつけられていて襖絵に描かれている。廊下も階段も狭く天井は低く、ロシアの方達には小人の家のようなものである。障子があると、小さな子ども連れのお母さんは「これは紙よ。触っちゃだめ！」と気が

気でない。

初日、一日歩いた夜に皆が一堂に会しての懇親パーティは、交流の重要な要素である。私が日口交流バス旅行に参加させて頂くのは今回3回目である。前回は2015年4月、鯉のぼりがはためく頃だった。懇親会ではロシアの皆さんが合唱を準備してくれていて、息の合った歌声を披露された。子どもたちは即興で舞台の上で踊り、レベルの高いエンターテイメント力に驚いた。今回は「リベンジ」とひそかに思っていたのは私だけだったのだろうか。

浴衣姿で夕食が始まると、あちらこちらでロシア語の歌が聞こえ始めた。用意した歌を4人で合わせるの、ほとんどぶっつけ本番だったが、ロシア語で歌うことがみんなの気持ちをひとつにした。さらにもう1曲、中村泰弘さん渾身の女装によるНастоящий полковникは、ロシアの皆さんが自然にコーラスで加わってきて、拍手喝采だった。今年の日口歌合戦は日本に軍配が上がったかな、と思ったのは私だけではなかっただろう。

この旅行に参加して梅の香りや歌をともに楽しんでくださったロシアの皆さんに感謝している。(常任理事)



いけばな2017 古流松藤会展

山岸 ひさ子

未だ余寒きびしい3月上旬、池袋の東京芸術劇場5階ギャラリーは百花繚乱。古流松藤会展第一、第二会場は華やかさに包まれました。

古流のいけばなは、200年余り前の江戸時代に誕生しています。古流松藤会は1916年に発足し、以来本年100周年を迎えてお祝いの花展です。前期3月7日～9日、後期3月10日～12日の6日間開催で、私は後期に出品しました。伝承の生花(せいけい)、天地人の古典の格調ある生花と自由な表現の現代花の花型がありますが、何れの花型にも奥深さを痛感し、生け花に携わっていてこれでよいという満足感を得るのは難しいです。

3月10日(金)は駐日ロシア大使館のいけばなのお稽古をお世話くださるエレナさんをはじめ、20数名の方々が大使館のバスでご来場されました。千葉、坂本両常任理事が大使館の皆さんと一緒にご案内。留学担当の山田さんも忙しい中、かけつけてくれました。千葉常任理事のかつての日本語の生徒さんでベラルーシの方と、きもの生徒さんでポーランドの方は草月流と池ノ坊の稽古をされているとのこと。

最後に、お家元の池田理英先生を囲んで大使館の皆様と会場入口で記念撮影をしました。

また、11日には通商代表部のオリガさんご夫妻、ロシア大使館のマリアさんがご来場されるなど、会期中多くの方々に見に来ていただきました。

坂本常任理事には遠方にも拘わらず、毎日、会場に詰めてご案内いただき、大変お世話になりました。ありがとうございます。また、会員の佐野さんがご来場されて久しぶりの再会を果たしました。

皆様のお陰で大勢の方々にご高覧いただき、12日に無事終了しました。日本の文化、「いけばな」の美の追求でした。後日、大使館のご婦人方からのお礼のメールをエレナさんを通じて頂きました。(常任理事)





ロシア留学体験懇談会に参加して

末原 綾乃

2月に行われたロシア留学体験懇談会に参加いたしました。最近では、留学自体はそう珍しいことではありません。留学フェア等もたくさん開催され、特に英語圏への留学については、情報の少なさ故に不安を抱くことはほとんどないでしょう。

一方で、ロシア留学に関する情報はまだまだ少ないと感じます。私は今夏からモスクワに一年間の交換留学を予定していますが、いまいち具体的なイメージを掴めずにいました。ロシアを専門に扱う学部や大学で学んでいるわけでもなく、ロシア留学に関する情報をほとんど得られていなかった私にとって、今回の留学体験懇談会はとても貴重な機会でした。

懇談会では、3人のロシア留学経験者の方のお話を聞くことができました。留学の時期や場所も、現在の状況もそれぞれでしたが、ロシアをまだ訪れたことがない私にとっては、どの話もとても新鮮で興味深いものでした。パワーポイントを使った発表では現地の写真もたくさん見せて頂きました。本人から直接聞く体験談にはやはり、ネットの情報とは一味違ったリアリティと鮮明さがありました。

懇談会で学べたことはたくさんありますが、そのうちの5つについて挙げてみようと思います。まず留学前に心得ておくべきこととして、1つ目、留学に対してきちんと目的を持つこと。2つ目、ロシア語学習など日本でも出来ることはなるべく留学前にやっておくこと。そして留学中のこととして3つ目、留学生という身分に閉じこもるのではなく、なるべくロシア人と同じ目線で生活してみる。4つ目、現地では出来ないこととそこでの出会いを大切にすること。最後に留学後を見据えた考えとして、5つ目、発展を続けるロシ

語学習者は多くない。それがロシア語の1つの特徴でもある。

アでも変わらないものを自分なりに掴んでくること。そして、この5点についてはロシアに限らず留学一般にあてはまることですが、それとは別に印象的だった話があります。

「ロシアが持つ国際社会への影響力はとても大きいですが、それに比べてロシア語学習者は多くない。それがロシア語の1つの特徴でもある。」

ロシア留学経験のおかげで普通ではなかなか関われないような大きなことに関わる機会に恵まれた、とのことでした(もちろんご本人の能力あってのことだとは思いますが)。懇談会では質問タイムも設けられ、参加者は何でも疑問をぶつけることができました。私以外の参加者の方もそれぞれの収穫を得たのではないかと思います。

日口交流協会の活動に携わる方々にとってロシアは身近な存在かもしれませんが、多くの日本人にとってはまだまだそうではありません。しかしその一方で、プーチン大統領の訪日が大きく注目されるなど、ロシアに触れる機会はちょっとずつ増えていると感じています。第二外国語として軽い気持ちでロシア語を学び始め、日露関係がこれからどうなるのか楽しみだなあ、とよく他人事のように思っていますが、ロシア留学が決まってからは徐々に、自分も将来その時代の流れに関わっていくことが出来たら、と思うようになりました。これからロシア留学を考える人がもっと増え、日露関係ももっと深まっていけばいいなと思います。

(一橋大学法学部3年)

返しにくれたりしました。

その時に感じたのは、自分の誕生日にプレゼントをもらうのは確かに嬉しいですが、プレゼントをあげることも、とても豊かな気持ちになれるということでした。欧州でも、たとえばドイツなどでそうした習慣が残っていると聞きましたが、調べてみると面白い比較ができるかもしれませんね。

逆に、プレゼントをいただく場合はどのようなときでしょうか?例えば3月だと、3月8日の国際婦人デーの日に女性は男性から花束をいただきます。イタリアでは、この日は「ミモザの日」と呼ばれ、黄色が可愛らしいミモザの花が女性にプレゼントされるようですが、ロシアではあまり明確に花の種類が決まっていないようです。筆者は、いつもピンクや赤のバラをもらっていました。女性の皆さんはロシアではバラをいただく機会が比較的多いかもしれません。

ロシアでは24時間営業の花屋が多く、なぜ何だろうと思っていたことがありました。しかし、いざ住んでみると、何かにつけて花を買う機会があり、日本よりも花の需要はずっと高いと感じます。この国際婦人デーなどはまさに花屋さんは大忙し!の日で、前日の3月7日から8日にかけて、ものすごい量の花がロシア国内で動いているようですね。

(JST 研究開発戦略センター・フェロー)

● 広報部宛、ご投稿、ご意見をお待ちしております



思いがけないプレゼントのやり取り

津田 憂子



ロシアに住んでいると、日本の習慣では馴染みのないシチュエーションでプレゼントをあげたりいただいたりすることがあります。今日はそんな思いがけないプレゼントのやり取りについてお話したいと思います。

皆さんはロシアで誕生日を祝った経験がおありでしょうか?日本だと、誕生日にはプレゼントを家族や友達、会社の同僚と様々な方々からお祝いの品としていただきます。一瞬ですが、とても裕福な気分になりますよね。実はロシアではその逆の習慣があります。つまり、誕生日を迎えた人間が普段お世話になっている方々にプレゼントをするわけです。かく言う筆者も、一度自分の誕生日にモスクワでケーキを特注したことがあります。世界に一つしかないケーキです。4キロもする巨大なケーキになってしまい、職場に持っていくのが大変でした。職場でこのケーキを切り分け、「今日は私の誕生日。いつも助けてくれてありがとう」と言って、同僚全員に配りました。気が利く男性はその日のうちに花束などをお

《モスクワ・アラカルト44》

「青いクジラ」が予言するものは？

日向寺 康雄

Sputnik日本チーフアナウンサー兼翻訳員

今年ロシア革命、旧モスクワ放送風に言えば大十月社会主義革命100周年にあたる。この壮大な実験は、もう25年以上も前に失敗しソ連邦は崩壊したが、最近あの時代への人々の見方が変わってきた。特にスターリンを評価し、彼のおかげでロシアは工業化に成功し大祖国戦争という未曾有の国難を克服できたのだという認識が、社会にますます広がっている。レヴァダ・センターが実施した世論調査によれば、アンケートに答えた人のうち46%が、スターリンに対し「感嘆」「尊敬」「共感」といった肯定的感情を抱いている。この数字は、ここ16年で最高だ。ひと昔前の年次調査では、三分二が彼について「何百万もの無実の人々の死に責任がある独裁者だ」とまづ否定的に受け止めていた。また、現在の体制を受け入れる傾向も高まっている。先日公表された米コロンビア大学地球研究所が作成した世界幸福度ランキングによれば、2016年度ロシアはイタリアに続き49位となり、前年よりランクを7つも上げた（日本は51位）。ここ数年ロシアは欧米による制裁下にあるが、国民は「プラグマチックな保守主義者の強い手」を受け入れ、安全とエネルギーと食糧が一応保証されていることから、あきらめに似た幸せをよしとしているようである。さらに90年代、経済・社会的危機のさ中に増加した自殺率も、このところ大きく下がり、10万人中の自殺者数は昨年15.4人となった（日本では2015年18.9人）。これは1960年代初めからこれまでで、最も低い数値だ。

しかしその一方で、今のロシアの状況を象徴的に示す数字もある。十代の若者達の自殺が増え、世界平均の3倍に達しているのだ。おとし自ら命を絶ったティーンエイジャーは460人だったが、昨年は何と720人に上った。これには、若者達を自殺へと導くソーシャルネットの存在が深くかかわっている。ロシアではすでに20万以上の人々が、自殺願望を裏付けるハッシュタグを利用した。中でも最も人気があるのは、#синийкит（青いクジラ）で、浜辺に身を投げ、自ら命を終えようとする美しく力強い自由なクジラの絵が描かれている。このグループに入った若者（物質的に恵まれた良家の子供が多い）には「選民意識」が植えつけられ、彼らは一種のゲームに引き入れられ、腕や足にクジラなどの刺青を入れ自傷行為に及ぶようになり、徐々に自殺へと遠隔誘導されるという。事の重大性に気付いたプーチン大統領は2月、自殺防止に向けた厳しい措置を講ずるようロシア政府に委任した。

つい先日私は「ペレストロイカ」時代、イスラエルに新天地を求め、現在モスクワに戻って実母の世話をしているM氏（50代男性）に会う機会があったが、彼は私に「社会は一見収まり平穏そうに見えるかもしれないが、変革を求めるマグマは若者達の心の奥底で眠っている。来年の大統領選挙以降も、クレムリンがその目覚めを抑えられるかどうかは分からない」と真顔で語った。

日本人と「ロシアパン」

倉田 有佳

1月下旬、東京出張で西新宿のホテルに宿泊した。旅先・出張先で公立図書館を訪れることが楽しみでもあり、歩いて数分の場所にある「新宿区立角筈図書館」に立ち寄った。閲覧室はさほど広くもないが、壁の棚にはずらりと「社史」が並んでいた。かねてより「ロシアパン」の「形」が気になっていたため、『中村屋100年史』（非売品・2003年）を手にとってみた。

社史によると、同社が「ロシアパン」の本格的な製造販売を開始するのは、亡命ロシア人のカララチ、そしてギリシャ系ロシア人キルピデスを職人として雇用した大正10年頃からだった。ちょうど日本に亡命ロシア人が定着し始めた時期である。社史の口絵には、キルピデスが作るロシアパンのディスプレイ用の巨大な「バトン」（Ба́тон）が載っていた！

筆者も1990年代前半、モスクワで日常的に食べていたのは「バトン」だった。黒パン「ボロジンスキー」の風味も大好きだが、どんな料理にも合い、邪魔せず、しかも腹持ちがいい。白米の感覚に近いのが「バトン」だ。ロシア人宅にお邪魔した時、「バトン」を横向きに置いてスライスし（確かにこれだと切り口が小さくてすみ、切り分け易い）、パンが乾燥しないように、すぐに木製のパン専用容器にしまっていたのが印象的だった。

だが、「ロシアパン」＝「バトン」、というわけでもなさそうだ。日露戦争後、日本領となった樺太（南樺太）では、鉄



「鉄道駅の物売り」記録フィルム「樺太の旅」より
昭和9年夏 小島清吉撮影（市立函館博物館蔵）

道駅に「ロシアパン」を売るロシア人の姿が見られた。明治末年に樺太を訪問した松本木公は、父親はサハリン島の元流刑囚だという少女マルーチャが、ミツリョフカ（中里）の駅で、赤ん坊の頭程の大きさのパンを二重にも三重にも布で包んで箱に入れて、冷めていても「温かいパンパン」と言って売り歩いてきた姿を自著『樺太探検記』の中で触れている。売られていたのは、丸パンの「ブルカ（Бу́лка）」

だろうか。

1930年代後半、樺太の「白浦（現ヴズモリーエ）」の駅で「ロシアパン」と牛乳を売り、まずまずの成功を収めていたポーランド人アダム・ムロチコフスキーが売っていたのは、「大きなロールパン」だった。駅弁売りよろしく、大きな箱にパンを入れ、日本人の乗客が窓からお金を出すと、清潔な紙切れにパンを包んで手渡していたようだ。

戦前の日本人が「ロシアパン」と呼んでいたのは、小麦を材料とする白パンだったが、形や種類は作り手や売場所によってまちまちだったようである。ロシア人が製造・販売したから「ロシアパン」と呼ばれたのかもしれないが、樺太の駅で「ロシアパン」を売っていたのは、主に残留「ポーランド人」だったと言われている。

（ロシア極東連邦総合大学函館校准教授）

● 広報部宛、ご投稿、ご意見をお待ちしております